

尾道文

学談話会会報

尾道大学

芸術文化学部 日本文学科

本誌創刊に寄せて

… 榎林 滉二 … 1

志賀直哉の宿 ― 藤屋旅館か鶴水館か―

… 寺杣 雅人 … 3

尾道の風土と『尾道草紙』

… 光原 百合 … 19

古書便り

―尾道大学附属図書館収蔵『經盛家譚合』について―

… 藤川 功和 … 43

[研究ノート]

お役人はなぜ魚になったか

… 鷹橋 明久 … 55

白樺の木の下で

… 談話会会員 … 63

尾道文学談話会テーマ一覧

…………… 68

本誌創刊に寄せて

尾道大学副学長 榎 林 滉 二一

尾道大学芸術文化学部日本文学科に一つの課題がありました。大学は、風光明媚な久山田の水源地の傍にあつて、学問、文芸の世界を豊かに育み、教育研究に従事してきました。しかし、尾道市民の方々との直接の交流に乏しく、そこにどう懸け橋をかけるか、開学以来の懸案事項となっていました。勿論、各種の公開講座や学会開催などを行っていますが、どこか隔靴搔痒の感がありました。

その積年の課題について、一つの突破口を開き、そこから詰め深めていこうと、昨年七月、寺杣雅人日本文学科長が率先して、尾道文学談話会を提起、実践されました。一気に広くというより、じっくり一步一步踏みしめていこうと、まずは、小人数で、尾道白樺美術館の一室を借りて、月一回、会を重ねてこられました。結果として、大学と市民との間に一つの橋頭堡ができてきた感があります。学科長に御礼申しあげるばかりです。

今回、そこでの成果や今後の企画案等を収録、会誌『尾道文学談話会会報』が刊行されることになりました。いかにも喜ばしい限りです。マスプロ化した世界の中、その流れにのらず、経済に、芸術に、文芸に、着実に教育研究を重ね、豊かな文化や人間づくりを行うのが尾道大学の特色の一つですが、本会も会誌発行も、まさにその心をもって行われてきました。そしてこれからも続けられていくことと思います。一粒の麦が地におち、芽を出し、ゆつくりと豊穡な世界を作りだしていくのです。

本誌の創刊に衷心より祝意を表するとともに、その実り多き発展を心から祈念するものです。

平成二十二年十月吉日